

「患者様が外見だけでなく、内面から美しくなるようなお手伝いをしていく！」

美容整形クリニックの数が急速に増加し、患者とのトラブルに発展するケースも少なくない。そこで最近、美容整形の医師たちが一堂に会して実際の手術を生中継し、レベルアップに取り組む試みも始まっている。東京皮膚科・形成外科銀座院院長の池田欣生氏は「今さら聞けない美容医療の基礎と手順を公開し、今後の活動に役立ててもらうのが目的」と語る。美容医療のトラブルを無くそうとする現場の動きを追うと――。

東京皮膚科・形成外科銀座院 院長 池田欣生 Ikeda Yoshio



より美しく、より健康的な状態を保てるように

―― まずは池田さんが美容整形外科医を志したきっかけから話してもらえますか。

池田 わたしの師匠でもある田嶋定夫教授が形成外科の権威で、事故の後の顔面骨折などを治す仕事をしていました。田嶋先生は何度も美容外科に行って教えることがあったので、わたしも勉強してみようと思ったのがきっかけです。

その後、耳の周りに腫瘍ができてしまった患者様がいらっ

しゃって、腫瘍を取り除きながら「フェイスリフト」という手術ができるということをお話したら、非常に喜んでくれたんです。患者様の喜んでくれる姿を見た時に、わたしはやはり病気の人でもきれいになりたいという願望はあるんだなと。これがきっかけで病気の人でもきれいにしたい、と考えるようになりました。

―― 単に病気を治してあげるだけではなく、きれいになつて帰ってもらいたいと。

池田 ええ。患者様がより美

しく、健康的な状態を保ちながら

からも喜んでもらえる仕事って、非常にやり甲斐ありますよね。

―― うちの「眼瞼下垂」といって、目の周りの手術でいらつしゃる方が多いです。例えば、年をとると目のたるみが出てくるので、目が開きにくくなるため姿勢が悪くなる。たるみをとってあげることによって若々しく働けるようにしてあげられます。

―― ですから、いまは美容整形で顔を変えたいというのはほとんどやっています。それよりも多くの患者様が元気を保つことができるような治療をしています。

―― 近年、急速に増加しているのが美容整形クリニックです。多くのクリニックが乱立する中で、人々はどうかクリニックを選び、信頼できる医師を見つけていけばいいのですか。

池田 仰る通り、自由診療（保険外診療）ということで美容外科に新規参入してくる先生が多くなってきました。美容外科の数はかなり増え、患

者さんがクリニックを選ぶ時代になったとも思います。しかし、残念ながら、そうした方々がみな腕のいい先生ばかりではあるとは限りません。

われわれ昔から美容外科に携わっている者からすると、これは残念なこと、医療の質を上げていくことが必要だと思っっています。そのため、美容外科全体の医療の底上げを図るため、医師が中心となってお互いの知識や技術を勉強し合える仕組みを作ろうと考え、「JAAS日本アンチエイジング外科・美容再生研究会」を立ち上げました。

―― ですから、まずはこうした協会のお墨付きがあるクリニックを選ぶことをお勧めします。そして、医師や受付などクリニックで働く人たちが患者様本位で考えてくれるかどうか、というのを自分の目で確かめてみるということです。こういう意識というのにはクリニックの組織全体に現れているもの、非常

なポイントだと思います。

情報公開でお互いのレベルアップを図る！

―― JAAS日本アンチエイジング外科・美容再生研究会では、4月に第3回ライブフォーラムを開催しましたね。この開催の意義とは何ですか。

池田 いま経済はかなりグローバルな時代になっていて、ローバルな時代になっていると思います。医療もグローバルの時代です。

―― 例えば、韓国が美容大国として知られていますが、このまま日本の医療が韓国や中国などの国際競争に負けるのは悔しいです。韓国も日本同様に玉石混淆で医師のレベルは人によってマチマチですし、トラブルも後を絶ちません。

―― しかし、美容外科というのは本来、安心で安全な医療でなくてはならないのに誤解されることも多いのが事実です。そこで当フォーラムでは、世界中から腕のいい先生に参加してもらい、ライブ映像を交

えて良い施術法や技術をお互いに学んでいきます。

―― 当然、トラブルは誰しも抱えたくないですから、そこでお互いの経験を語り合うことによって、未然にトラブルを防ぎ、医療技術のレベルアップを図っていくのが目的です。

―― しかし、普通は企業秘密で、名医と呼ばれる先生は技術を隠しがりますよね。

池田 わたしも10年くらい前まではそう思っていて、日本ではなければいいやと考え、韓国に「切らない施術法」や「腫れない施術法」などの技術を教えにいったんです。

―― 実は当時、韓国は今ほどの美容大国ではなかった。ここ数年で韓国の医療技術は格段に向上し、日本を逆転して美容大国と言われるまでになりました。それまでは自分も心の器が小さくて他人に技術を教えるのが嫌だったんですが（笑）、こうした現象を見ると日本もウカウカしていられないぞと。

美容医療全体の底上げを目指して—— 日本アンチエイジング 外科・美容再生研究会が 第3回ライブフォーラムを開催



4月14日、15日の2日間をわたって、東京・八重洲で「日本アンチエイジング外科・美容再生研究会（J A A S）」の第3回ライブフォーラムが開催された。会場には約200人の医師や医療関係者が集まった。「今さら聞けない美容医療の基礎と手順を公開し、美容医療全体のレベルアップで底上げを図る」（池田欣生・東京皮膚科・形成外科銀座院長）J A A S（理事）で、会場では多くの治療術や症例などを例に挙げながら

この日、池田氏はヒアルロン酸の注入手術のライブオペを担当。近年、人は年をとると骨が萎縮することが分かってきた。そこで池田氏は「究極の美容医療は骨からきれいになること」と捉え、骨の形を若い頃に戻していく施術法を追求している。「骨のバランスが崩れていくと、顔の皮膚を引っ張ったり、コラーゲン注射をしたりしても、



ライブオペでは会場と手術室を双方向でつなぎ、様々な意見交換を行った

やはり限界がある。骨の形を若返らせることができれば、長期間にわたって美しさを保つことができるし、見た目も若々しく見えるようになるのです」現場の試行錯誤やお互いの体験、技術を持ちあいながら、医療全体のレベルアップを図る。それこそがこのフォーラムの開催意義なのである。

東京皮膚科・形成外科銀座院
〒104-0061 東京都中央区銀座 2-11-8
DUPLEX GINZA TOWER 3F
TEL 03-3545-8000
HP <http://www.251901.net/>

活発な議論が交わされた。

中でも参加者の注目を集めたのが、実際の美容外科手術を生中継したライブオペ。実際の手術を見ることで具体的な手術や施術法に接し、参加者からは様々な意見交換がなされた。

池田氏は、切らない手術や腫れない手術を次々に開発し、働く女性の評判を呼んでいる人物。2008年には韓国・大韓美容外科学会と韓国美容外科学会会長の二重手術を、約300人の医師の前で公開。その場で実際に腫れないことを証明し、大韓美容外科学会に表彰されている。

高濃度ビタミンC」の点滴を打つたりすると、細胞の隅々にまでビタミンCが行きわたり、シミが出来にくくなります。こうした治療を施すことにより内面から美しくなってもらうという考え方です。

日本から高齢化時代の新しい医療モデルを発信！

つまり、身体の中から予防することですね。

池田 ええ。予防の大切さというのは皆さん理解していると思いますが、予防は大事と言っても、実際に痛い思いをするまでは手を打たないケースが多いじゃないですか。ですから、今日からでも始められるということで、例えば、うちでは一食250キロカロリーの「ダイエット弁当」をお勧めしています。

最近ではたくさん食べる人ほど早く亡くなることが分かっています。小食の人ほど長生きすることが分かったんです。消化吸収することで、人



池田さんが手にしているのは、一食250キロカロリーの「ダイエット弁当」。健康維持のために自身も様々な取り組みをしている

の身体はものすごいエネルギーを使う。だから、よく食べる人は身体に負担がかかってしまうんです。ダイエット弁当で必要な栄養をとりながらカロリーは抑えていく。わたしも毎日ダイエット弁当を食べて実践しています。

最後に読者へのメッセージをいただけますか。

池田 『財界』誌の読者は、企業トップの方が多いと思いますが、トップの表情がいつも疲れているようでは、会社の印象も悪くなってしまいます。ですから、取引先の方

などに若々しく、元気な印象を持つてもらうことが大事だと思うんですね。その意味で、内面から若さを保つことは非常に重要だと思います。日本は少子高齢化で、皆さん悲観的な議論をする方が多いですけど、わたしは逆に高齢者が元気になる医療を開発して世界に輸出したいんです。医療が発達すれば世界中で高齢者が増えてきますので、日本から高齢化時代の新しい医療モデルを創ることで、輸出できる新しいビジネスモデルを創っていったら、と思っています。

ライブに技術を教えているのかという考えもあります。が、それ以上に技術のレベルアップを図らなければ、日本の医療の将来が危ないと考えられるようになりました。そうした背景もあって、定期的にフォーラムを開催するべきだと考えたのです。

ここで情報交換をしたり、意見交換をして、お互いに切磋琢磨していくわけですね。

池田 そういうことです。患者さんで一番多いのは、シミをとったり、ホクロをとったりする方です。しかし、外見をきれいにするわけではなく、わたしは患者様を内面からきれいにしたいと思っています。

どういうことかという、人は誰しも年齢を重ねることによって抵抗力が衰え病気になるやすいものです。ですから、逆転の発想で、病気になりにくいように内面から元気にさせる医療をしようと考えています。